

株式会社 ファミリーマート御中

タイ王国

子どもの水の事故防止推進事業

1 年次完了報告書



2020 年 5 月
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

I. はじめに

事業名	子どもの水の事故防止推進事業
事業地	タイ バンコク都
事業期間	2019年3月 - 2021年2月 (24ヶ月)
報告対象期間	2019年3月1日 - 2020年2月29日
事業の総受益者	バンコク市内の小学校 14校 (1年次の対象8校の合計生徒数：3,329人)
御社ご支援額	450,000米ドル (50,134,500円)

2019年3月に開始した、タイにおける子どもの水の事故防止推進事業へあたたかいご支援をいただき、ありがとうございます。御社のご寄付が、子どもたち、教師や保護者、コミュニティの水の事故予防のための知識の向上につながっています。心からの感謝をお伝えするとともに、1年次の活動の報告をいたします。今後も引き続きのご支援をお願いいたします。

II. 背景と本事業の目的

1. 事業対象地の子どもたちを取り巻く課題

洪水、サイクロン、津波などの自然災害が多発し、また都市部においても川や湖などの水資源が豊富にあるタイでは、水の事故による死者数が特に多いとされており、子どもの水の事故のリスクの高さは、深刻な問題となっています。15歳以下の子どもの死亡原因で最も多いのが溺死であり、2000年から2018年までの間に合計2万2千人以上の15歳以下の子どもが亡くなっています¹。また、障害のある子どもは水に関する事故に巻き込まれないよう、特別な配慮が必要です。子どもたちが安心して暮らせる社会づくりのためには、彼らが水の事故を予防できるようになるための正しい知識の習得が欠かせません。



対象地：バンコク都（タイ王国）

2. 本事業の目的

本事業は、障害のある子どもも含めたより多くの子どもたちに、子どもの水の事故を防ぐための水泳教室の実施、行政に対する政策提言を通し、水上安全のメッセージと予防のための知識と技術を広げていくことを目的としています。

3. これまでの事業の進捗

セーブ・ザ・チルドレンは、株式会社ファミリーマート様のご支援を受け、2016年9月から2年間、バンコクの合計7つの小学校にて、子どもたちの声を取り入れた水の事故予防のためのゲームや映像などの啓発教材を開発しました。また、子どもたちが水に関する安全について学ぶ水泳教室を開催しました。これまでの成果を生かし、2019年3月より新たに、事業対象校を拡大し、子どもたちに対し水の事故予防の講習を行い、また、災害時に特に影響を受けやすい、特別なニーズのある子どもの水の事故予防を推進する事業を開始しました。

¹ <https://www.bangkokpost.com/news/general/1652264/child-drowning-deaths-hit-new-low>

Ⅲ. 活動報告と主な成果

本事業は、2年間で14校の小学校を対象とする予定であり、1年次の対象校には、バンコク都教育サービス局、学校法人委員会、バンコク都庁との協議の結果、以下の8校を選定しました。選定の際には、学校側に事業に対する関心と熱意があり、また活動に協力する意思があることを主な基準としました。対象校8校のうち、Suan Bua 小学校および Wat Wetawanthammawat 小学校は、2017年から2018年に実施した先行事業に参加しています。この2校の教師は、本事業において、新たに参加する6校の教師に助言を与え、また、障害のある子どもにやさしい泳法指導マニュアルの作成にも参加するなど、先行事業からの学びを生かしていく役割を担います。

表1：事業対象校（1年次）

学校名	地区	生徒数		
		女子	男子	合計
Sanghirun	Wattana	51	38	90
Anuban Phibunwes	Wattana	528	502	1,030
Prathomnonsee	Yannawa	145	172	317
Surao Sam-in	Wattana	219	221	440
Surao Ban Don	Wattana	73	64	137
Sawasdee Wittaya	Wattana	299	281	580
Suan Bua	Phaya Thai	148	188	336
Wat Wetawanthammawat	Bang Sue	192	208	400
合計		1,655	1,674	3,329

なお、Wat Wetawanthammawat 小学校には、17人（女子3人、男子14人）、Prathomnonsee 小学校には14人（女子5人、男子9人）の障害のある子どもが通学しています。

<期待される効果1> 子どもとその家族、地域住民が、水の事故予防のための知識と技術を習得する

水難に備えた泳法のワークショップ（指導者研修）

バンコク郊外のパトゥムターニー県で、2019年4月、4日間の指導者研修を行い、新たに事業に参加する6校の23人の教師（女性15人、男性8人）に加え、先行事業に参加したRachawinit 小学校（本事業の対象校ではない）およびSuan Bua 小学校の教師（各2人）、Wat Wetawanthammawat 小学校の教師（1人）が参加しました。研修では、タイ・ライフセービング協会（Thai Life Saving Society=TLSS）から派遣された講師の指導のもと、水上安全に関する基礎的な知識や心肺蘇生法についての講習、泳法訓練を行いました。参加した23人のうち12人は、研修前は泳ぐことができませんでしたが、4日間の研修を受けた後、水に浮く方法や水中で動く方法など、基礎的な技術を測るテストに全員が合格することができました。水上安全に関する知識についても、研修の前後で、平均9.2点から平均18.0点（ともに25点満点）と、向上が見られました。また、この研修においては、通常の授業や学校の活動にどのように水の事故予防のトピックを組み込むことができるかについて話し合い、各学校における活動計画

の草案を作成しました。この活動計画作成にあたっては、先行事業に参加した小学校の教師が、新しく事業に参加した 6 校の教師に対し、自分たちの学校での実践例を紹介するなどしてサポートしました。

教師が生徒たちに教えるのは、水の事故のリスクの高い場所と事故を避けるための知識、3 分間以上水に浮く方法、15 メートル水中を移動する方法、“Shout-Throw-Hand（叫ぶ→投げる→手渡す）”のメッセージ²に基づき人命救助する方法、そして、救命ジャケットの着用方法です。事業チームは研修の後も、教師が各学校でこれらを生徒たちに適切に指導することができるよう、TLSSと協力して技術的なフォローアップや助言を行いました。なお、2 年次の指導者研修は 2020 年 4 月 2～5 日に実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大予防措置のため、当面日程を延期しています。



23 人の教師が、水の中で救助を待つ時の体勢、ロープ等を使用した救助方法について学びました（2019 年 4 月、パトゥムターニー県）

指導者向けリフレッシュ研修

2019 年 10 月、教育省特別教育局の支援のもと、指導者研修の一部として 2 日間のワークショップを Suan Bua 小学校において実施し、事業対象校の 8 校から計 22 人の教師（女性 9 人、男性 13 人）が参加しました。このワークショップは、教師たちが 4 月の指導者研修で学んだ水の事故予防の知識や泳法技術について振り返りながら、次の学期の講習の計画を立てること、タイにおける子どもの水の事故の現状についてさらに理解を深めること、障害のある子どもが水の事故予防の活動に参加する重要性を理解すること、そして、障害のある子どもに対する教授法について学ぶことを目的としました。ワークショップには、障害のある子どもが通う Wat Wetawanthammawat 小学校と Prathomnonsee 小学校の特別教育教師が参加し、障害のある子どもとともに活動する上で重要な知識や経験を共有しました。また、参加者は、様々な種類の障害の特性や彼らとのコミュニケーションの取り方などについて理解を深めました。参加した教師たちは、障害のある子どもを指導計画に含める必要性を理解し、また、セーブ・ザ・チルドレンに対し、障害のある子どもが理解しやすい教材や指導者用のツールを開発するよう要望しました。



教師たちは、障害のある子どもが水の中でどのように不安を感じるかを知るため、足や腕を固定した状態で水に入りました（2019 年 10 月、Suan Bua 小学校）

生徒たちへの 6 週間講習の実施

この講習は、生徒たちに合計 18 時間の講習を 6 週間にわたって実施するものです。Wat Wetawanthammawat 小学校では 2019 年 8 月と 12 月に講習を実施し、計 122 人の生徒（男子 57 人、女子 65 人）が参加しました。生徒たちはこの講習で、水の中で浮いて救助を待つための姿勢や、さまざまな道具を使って、溺れそうになっている人を救助する方法を学びました。8 月の講習の参加者 63 人に、水の事故予防に関する知識についてテストを実施したところ、事後テストにおいて 63 人の生徒のうち 49 人に知識の向上が見られました。

² 「叫ぶ→投げる→手渡す」は、溺れそうになっている人を見つけた時は、水の中に入って救助を試みるのではなく、まず「大声で助けを呼び」、「ペットボトルなど水に浮くものを投げ」、そして「ロープや木の枝など捕まるものを渡す」ことで救助する、という安全な救助方法を示す重要なメッセージとして教えています。

また、学校にプールを有する Sanghirun 小学校と Suan Bua 小学校においては、既存の水泳の授業にプログラムを組み込む形で講習を実施しました。生徒は水難に備えた水泳技術を学び、ロープなどの道具を使い、仲間同士で救助しあう練習も行いました。また、子どもの安全推進・傷害予防研究センターの協力のもと、心肺蘇生法についての講習も実施しました。この講習には、Sanghirun 小学校から計 25 人（女子 14 人、男子 11 人）、Suan Bua 小学校からは計 49 人（女子 27 人、男子 22 人）が参加しました。講習内容の理解度を測る事前・事後テストにおいては、Sanghirun 小学校では、生徒たちの理解度が 56%から 59%へと上がりました。一方、Suan Bua 小学校では、事前テストを行うことができなかったため、事後テストのみの実施となりましたが、生徒たちの理解度は 75%と高い結果となりました。



子どもたちへの水泳講習は、研修を受けた教師が行いました（2019 年 12 月、Wat Wetawanthammawat 小学校）

表 2：6 週間講習の参加生徒数

学校名	実施月	生徒数		
		女子	男子	合計
Sanghirun	2019 年 9 月	14	11	25
Suan Bua	2019 年 9 月	27	22	49
Wat Wetawanthammawat	2019 年 8 月、12 月	65	57	122
合計		106	90	196

生徒たちへの 3 日間キャンプの実施

上記以外の 5 校は、3 日間連続で集中的に計 18 時間の講習を行う「キャンプ」を実施しました。3 日間のプログラムは以下の通りです：

第 1 日目：

- タイにおける子どもの水の事故の状況について
- “Shout-Throw-Hand”に基づいた人命救助、救命ジャケットの着用方法、心肺蘇生法について

第 2 日目：

- 泳法訓練（水に浮く、水の中を移動する、様々な道具を使って自身または他者を救助する方法）

第 3 日目：

- 泳法訓練（水に浮く、水の中を移動する、様々な道具を使って自身または他者を救助する方法）
- 泳法のテスト

1 学期は、日程の関係上実施が叶わなかった Anuban Phibunwes 小学校を除く 4 校の計 241 人（女子 124 人、男子 117 人）の生徒が、2019 年 7 月から 8 月にかけて、講習に参加しました。この 4 校の参加者合計 241 人に事前事後テストを実施したところ、182 人に、事後テストにおいて知識の向上が見られました。2 学期には、2019

年 12 月から 2020 年 1 月にかけて、Sawasdee Wittaya 小学校を除く 4 校にて 3 日間キャンプを実施し、計 149 人（女子 79 人、男子 70 人）が参加しました。

この 3 日間キャンプについては、各学校が実施において独自の工夫を行ったり、ネットワークを広げて外部機関からの支援を得たりしました。Surao Sam-in 小学校では、水泳が得意な 6 年生の生徒たちがリーダーとなり、教師による生徒への講習をサポートする役割を担いました。Surao Ban Don 小学校では、幼稚園から 9 年生までの通常の授業に水の事故予防のための内容を取り入れました。また、ワッタナー区行政事務所が Surao Ban Don 小学校に水泳講師を派遣し、学校における活動を支援しました。Prathomnonsee 小学校では、学校の近くのサービス・アパートメント運営会社の協力を得て、プールを無償で使用することができました。Anuban Phibunwes 小学校は、Sanghirun 小学校の協力を得て、Sanghirun 小学校のプールを使用し、さらに Sanghirun 小学校の体育教師がボランティアとして活動を補助しました。このように、活動を通し、参加校同士の協力関係が生まれたことも、この事業の成果と言えます。

なお、Sawasdee Wittaya 小学校については、事業担当であった教師の離職が影響し、2 学期の講習を行うことができませんでした。離職した教員の役割を引き継ぐことができる教員がいなかったため、この学校は、本事業への参加を継続しないことになりました。



ロープと袋を使った救助について学ぶ子どもたち
(2020 年 1 月、Surao Ban Don 小学校)



心肺蘇生法の講習に参加する子どもたち（2019 年 12 月、Prathomnonsee 小学校）

表 3：3 日間キャンプの参加生徒数

学校名	実施期間	生徒数		
		女子	男子	合計
Anuban Phibunwes	2019 年 12 月 13-15 日	15	18	33
Prathomnonsee	2019 年 8 月 19-21 日	18	30	48
	2019 年 12 月 18-20 日	21	21	42
Surao Sam-in	2019 年 8 月 13-15 日	32	25	57
	2019 年 12 月 16-18 日	27	17	44
Surao Ban Don	2019 年 7 月 22-24 日	46	31	77
	2020 年 1 月 13-15 日	16	14	30
Sawasdee Wittaya	2019 年 8 月 14-16 日	28	31	59
合計		203	187	390

講習に参加した生徒たちの声

「私の学校の近くにも、水の事故が起こる可能性がある場所がありますが、そういったところで遊んでいる友達もたくさんいます。不注意による事故が起こらないようにしなければと思っています」 (小学4年生の女の子)

「講習では、救命ジャケット、ロープや、水に浮くものなどを使って人命救助ができることを学びました。もし誰かが溺れそうになった時には、ここで学んだ知識を使って助けることができるようになりたいです」 (小学6年生の女の子)

「私の父親は、緊急救援のボランティアをしているので、私も心肺蘇生法の講習が好きです。将来、自分の父親のような、緊急時に誰かを助けることができるボランティアになりたいです」 (小学5年生の男の子)

Photo-Voice

“Photo-Voice”は、参加型ワークショップに写真を活用するもので、問題を発見し、その解決方法をみんなで考える手法です。事業対象校の教師たちは2019年4月に実施された指導者研修においてこの新しい手法について学び、まず、それぞれの学校で、生徒たちの周囲に存在する水の事故のリスクをどのように下げるかについての講習を行いました。その後生徒たちが水の事故のリスクがある地域の写真を撮影し、その写真を使用して議論を行い、リスクの分析やリスクを下げるための解決方法について話し合いました。この分析の結果は、それぞれの学校内の掲示板や学内のイベントでの発表を通して他の生徒たちに共有され、他の生徒たちの水の事故予防に関する意識向上に役立てられました。また、活動の成果は、2020年2月に行われた事業成果披露イベントでも発表されました。



水の事故のリスクの高い場所について子どもたちに教える教師 (2019年12月、Wat Wetawanthammawat 小学校)



学内イベントで Photo-Voice の成果が発表されました (2019年12月、Suan Bua 小学校)

シード・ファンドを通じた活動支援

教師や生徒たちは、この事業を通して得た知識を活用し、それぞれの学校で独自に水の事故予防のメッセージを普及させる活動を行うことが期待されます。本事業は、「シード・ファンド」で、その実施に必要な費用を支援しました。2019年6月、事業対象校に対し、このファンドの申請についての説明を行い、その後、8校全てが、それぞれの学校における水の事故予防の活動を計画・申請し、うち7校が実施するための資金を得ました。「シード・ファンド」は、例えば、タイ語の授業の中で使用するゲームの制作、科学の授業で使用する浮力について学ぶ教材の制作、また、職業・家庭の授業で救命ジャケットを自作するための材料の購入や、美術の授業で啓発メッセージを作成する材料の購入など、さまざまな教科の授業において水の事故予防について学ぶための教材の制作に活用されました。また、幼稚園の子どもたち向けに教えるための家庭用のビニール・プールなどを購入するのにも活用されました。



Sanghirun 小学校の校内イベントでは、救助のためのロープを投げるゲームや、救命ジャケットの着用の大切さについての発表が行われました（2020年3月、Sanghirun 小学校）

事業成果披露イベント

2020年2月、事業対象校の生徒や教師たちが、バンコク都に隣接するノンタブリー県のスポーツ施設にてそれぞれの学校で実施してきた活動の成果を披露するイベントを開きました。事業チームは事前に学校教師たちと打ち合わせを行い、役割と責任について話し合い、イベントの内容やスケジュールをともに作成しました。

イベント会場には、1) リスクが高い地域についての発表、2) “Shout-Throw-Hand”のメッセージに基づいた救助道具の使い方の実演、3) 3分間水に浮かぶ技術の実演、4) 水中を15メートル動く技術の実演、5) 救命ジャケット着用の実演、の5つのコーナーが設けられました。また、子どもたちのアイデアをもとに作成した、デジタル・ゲームのコーナーも設けられました。デジタル・ゲームは学校やそのほかの団体に配布されており、各学校ではコンピューターにインストールされ、子どもたちの学習に役立てられます。

会場には、それぞれの学校の展示ブースが設置され、上述の「シード・ファンド」を活用して作成した、粘土を使用した立体的なポスターや手製の救命ジャケットなど、アイデアに溢れた啓発教材や学習教材が披露されました。このイベントの様子は、様々なメディアで取り上げられました（参考資料2）。



それぞれの学校から参加した生徒たちが、自分たちの学校における啓発活動を紹介したり、講習で習得した救命方法を披露したりしました（2020年2月、ノンタブリー県）

＜期待される効果 2＞ 地方及び国レベルで、インクルーシブな水の事故予防教育が普及する

ワーキング・グループの設立

タイの社会開発・人間の安全保障省の障害者エンパワーメント局によれば、2019年6月末現在、タイには200万人を超える障害者がいます。そのうち身体障害が50%を占め、次いで聴覚障害（19%）、視覚障害（10%）と続きます。この200万人強のうち、15万人が21歳以下の子とおよび青少年です。また、精神保健局によれば、これとは別に自閉症、注意欠陥・多動性障害、知的障害や学習障害のある子どもが80万人以上います³。セーブ・ザ・チルドレンはこれまでも、防災関連の事業で、障害のある子どもが学びやすいように配慮し、障害のある子どもを災害リスクから守ることに視点を置いてきました。本事業では、これまでの知見を生かし、障害のある子どもにやさしい泳法の教授技術とガイドラインを作成しています。

2019年9月には、教育省特別教育局、保健省疾病対策局、社会開発・人間の安全保障省の障害者エンパワーメント局、内務省災害防止軽減局、バンコク都庁教育局、障害児のための基金やタイ・ライフセービング協会(TLSS)から計7人（女性3人、男性4人）が参加し、障害のある子どもにやさしい水の事故予防のためのワーキング・グループの設立に向けた話し合いを行いました。会議では、障害のある子どもの水の事故予防のための戦略と枠組みをつくっていく必要性について合意しました。

2020年1月には2回目の会議を実施し、政府機関と非政府組織から計24人（女性16人、男性8人）が参加しました。会議では、本事業のコア・アドバイザーである教育省特別教育局の専門家が、タイにおける子どもの水の事故と障害のある子どもの状況についての調査報告の内容を共有し、本事業では自閉症の子どもに焦点を当てた活動を行うことを提案しました。自閉症の子どもたちは、常に歩き回る行動特性や、コミュニケーションが困難なケースがあるため、障害のある子どもの中でも特に水の事故に遭うリスクが高いからです。また、この会議では、教師と保護者向けの障害のある子どもにやさしい泳法マニュアルの最初の草案が共有されました（下記、「障害のある子どもにやさしい水上安全ガイドライン作成」を参照）。



アイマスクで目を隠し、視覚障害のある子どもをどのように指導するかについて、ロールプレイが行われました（2020年1月、バンコク都）

バンコク都庁との協議

セーブ・ザ・チルドレンは、学校教育の中で水の事故予防プログラムが国全体で実施されるようになることを目指し、保健省非感染性疾病局、保健省などとともに、政策提言戦略を作成しました。政策提言の狙いは、教育省とその他の関係省庁が、水の事故予防を学校のプログラムに組み込み、また、それを実施するための予算を充当するようになることです。この政策提言戦略に基づき、事業チームは、バンコク都庁教育局とは2019年8月に、バンコク初等教育地域局、私立教育委員会とはそれぞれ11月に会議を行い、子どもの水の事故予防プログラムの持続性について話し合いました。本事業においては、成果の持続性を担保するために、教師の能力を強化し、学校で継続的に教師が生徒に教えることができるようになる体制をつくっています。また、学校における水の事故予防プログラムの継続的な実施につながるよう、水の事故予防に関するトピックを他の科目の授業に取り入れています。セーブ・ザ・チルドレンは、持続性を担保するための

³ <http://www.healthandtrend.com/parental/kid/parents-need-to-take-care-of-4-special-children-risk-of-drowning>

これらの手法に関するマニュアルも作成しました。会議では、プログラムの持続性が高まれば、学校における水の事故予防の活動への政府予算の充当につながるのではないか、という議論がなされ、会議参加者は、既存の子どもの水の事故予防のための政策を改善していくことに合意しました。さらに、障害のある子どもにやさしいプログラムの開発の重要性についても賛同しました。

12月に実施した会議では、2年次の対象校の選定について協議しました。新規対象校への打診にあたっては、1年次の対象校の学校長が事業チームをサポートしました。新たに選定した対象校8校は、事業への参加に前向きな姿勢を示しています。



バンコク都庁教育局との会議（2019年8月）

障害のある子どもにやさしい水上安全ガイドライン作成

障害のある子どもたちは、他の子どもたちとコミュニケーションをとることが難しいことがあり、また、困った時にどのように周囲に助けを求めればよいのかもわからないこともあります。さらに、災害に直面した際に、どのようにして自らの身を危険から守るべきか、十分に教えられていないことが多いのです。保健省精神保健局は、自閉症や注意欠陥多動性障害、学習障害などの精神障害のある子どもたちが、特に水の事故に遭いやすいという懸念を示しています。実際、水の事故に遭う子どもの多くが、自閉症や知的障害の子どもたちです⁴。そのため、保護者など周囲の人々がより注意して見守る必要があります。そこで、本事業においては、以前セーブ・ザ・チルドレンがタイ南部において実施した「インクルーシブ防災」プログラムの経験をもとに、障害のある子どもたち自身が水の事故を予防するための知識だけでなく、彼らが溺れそうになった時、周囲の人がどのように救助すべきかについての知識も含むガイドラインを、教育関係者および保護者向けに作成しています。

2019年10月に、教育省特別教育局の専門家の協力を得て実施した教師向けワークショップ（上述の「指導者向けリフレッシュ研修」を参照）では、水の中で目隠しをしたり、また腕や足が動かないように固定した状態で水に浮いたり、また、自閉症の子どもとのコミュニケーションを想定したロールプレイを行ったりしました。参加した教師たちが共有したワークショップにおける学びは、ガイドラインの作成に生かされます。11月には、事業チームが教育省特別教育局と、ガイドライン開発のためのアイデアや障害のある子どもたちのための特別講師の養成などについて話し合いました。その結果、まずは、自閉症の子どもたちを水の事故から守るためのガイドラインを作成し、その後他の障害についてもガイドラインを作成していくことに合意しました。

2020年1月に実施したワーキング・グループ会議では、教師と保護者向けの障害のある子どもにやさしい泳法マニュアルの最初の草案が共有されました。このマニュアルは、「自閉症スペクトラム障害の子どもたちの特性」、「水の事故防止についての視覚教材」、「事故防止のための泳法の教授法について」のトピックを中心に作成しています。事業チームと特別教育局は、今後、特別教育教師、自閉症の子どもたちとその保護者の協力を得て、水の事故予防のためにどのような指導が有効かについて検討するワークショップを予定しています。

⁴ <https://th.rajanakul.go.th/preview-3097.html>

振り返りワークショップ

事業チームは、事業対象校の8校から計22人の教師（女性13人、男性9人）を招き、次学期の活動計画策定に向け、これまでの活動について振り返るワークショップを行いました。教師たちはそれぞれの経験を共有し、先行事業にも参加した Suan Bua 小学校と Wat Wetawanthammawat 小学校からは、学校で活動を行うにあたり、どのように計画し実施していくかについての具体的な共有がありました。なお、1年次の活動終了後の2020年3月には、教師たちが、事業がどのように生徒たちの水の事故予防に貢献したかについて話し合う2回目の振り返りワークショップを予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大予防の措置のため、延期となっています。

“Alert Little Tun”⁵アニメーションを使用した啓発メッセージの普及

タイにおける子どもの水の事故は、3月から5月、および10月といった学校の長期休暇中に多く発生します。そこで、2019年3月9日から4月20日の間、特に5歳以下の子どもに対する水の事故予防啓発のために、Thai PBS（タイの国営放送局）で“Alert Little Tun”のアニメーションを放映しました。Thai PBSは、子どもの水の事故予防を中心トピックの一つとしており、さらに、7月上旬からは、26本のエピソードを毎週放映しました。これらの映像は、同放送のウェブサイトやYoutubeでも視聴可能で、2020年2月末までのオンライン上での視聴数は合計約13万となっています。また、“Alert Little Tun”アニメーションのDVDと塗り絵本を、リーフレット、ポスターとともに各学校に配布し、子どもたちへの水の事故予防のメッセージの普及に取り組んでいます。この啓発教材は2年次においても活用していきます。



塗り絵本の表紙（表・裏）（左：幼稚園児向け、右：小学生向け）



リーフレット、ポスター

⁵ モグラのキャラクター“Tun”が動物の仲間たちと防災（特に洪水災害への対応）について学んでいくストーリー。先行事業で作成した13のエピソードを含め、セーブ・ザ・チルドレンはこれまでに26エピソードを作成しています。Thai PBS の“Alert Little Tun”のサイト：

<http://program.thaipbs.or.th/LittleTun>

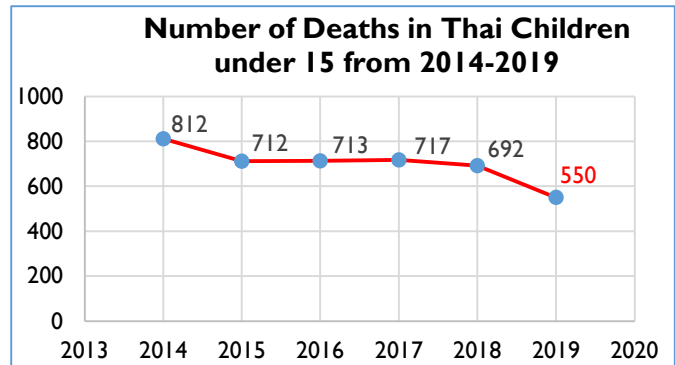


DVD の表紙

ソーシャルメディアを通じたキャンペーンの実施

セーブ・ザ・チルドレンは、タイの全ての子どもの水の事故を防ぐことができるよう、国レベルで子どもの水の事故予防プログラムの実施を要望する声を集め、関係省庁に届けるための署名キャンペーンを実施しています。2019年3月第1週の「子どもの水の事故予防のためのナショナル・キャンペーン・デー」と連動して上述の“Alert Little Tun”の放送日を調整し、またこの放送と連動して署名キャンペーンを開始しました。現在、5万人を目標に署名を集めており、2年次にはこの署名を教育省に提出する予定です。また、新型コロナウイルス感染拡大予防の措置による外出制限で、子どもたちの行動範囲が変化することを考慮し、フェイスブック等のソーシャルメディア上で、子どもとその家族に対し、家の周りでの身近な水の事故のリスクと予防についての啓発を行っています。

保健省非感染性疾病局によれば、2019年のタイにおける15歳以下の子どもの水の事故による死者数は、2014年と比べて3割以上減少しています⁶。セーブ・ザ・チルドレンは、予防可能な事故による子どもの水の事故を、子どもや保護者、地域社会の人々が適切な知識を習得することによって防ぐことができるよう、啓発活動を継続して実施していきます。



タイにおける15歳以下の子どもの水の事故の犠牲者数の推移

IV. 今後について

本事業は、2020年2月末に1年次を終了し、3月から2年次の活動を開始する予定でしたが、タイでは新型コロナウイルス感染拡大に伴い、3月26日に非常事態宣言が発令され、様々な社会経済活動が中断、縮小したため、活動が実施できない状況が現在も続いています。学校については、通常は3月から5月中旬まで春休みの後、5月中旬より新学年が開始されますが、感染拡大予防措置に伴い、学校が再開するのは早くても2020年7月になる見込みです。

これに伴い、現在、7月から学校が再開された場合に向けて、活動計画を調整していますが、3月から5月に予定していた、新規事業対象の8校の教師に対する指導者研修などがすでに延期となっています。活動計画の変更については、別途ご相談させていただきます。

⁶ <http://www.thaincd.com/2016/mission/documents-detail.php?id=13790&tid=37&gid=1-027>

V. 収支報告

	1年次支出 (円)	2年次予算 (円)	合計 (円)
活動 1	10,383,699	12,915,956	23,299,655
活動 2	3,318,032	6,938,131	10,256,163
現地サポートスタッフ人件費	1,554,878	3,212,497	4,767,375
旅費交通費	96,301	148,414	244,715
器材費	11,819	328,063	339,883
モニタリング・評価費用	2,489,509	773,361	3,262,869
活動運営費 (現地事務所サポート 費、通信費、報告書作成費等)	6,202,471	1,761,369	7,963,840
計	24,056,709	26,077,791	50,134,500

※実際の予算、支出は USD であり、上記 (日本円) は 2019 年 3 月 29 日時点のレート (111.41JPY) で計算したものを。

参考資料 1 : 活動スケジュール (2 年次)

※X は実施済み、■ は実施を延期している活動。6 月以降の活動計画は現在調整中。

活動	2020											2021	
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
学校休暇期 (※2020 年 6 月まで延長予定)													
事業レビュー (内部)	X												
活動 1													
学校選定	X												
教師に対する指導者研修	■	■											
教師に対するリフレッシュ講習													
生徒たちに対する、水の事故予防のための 6 週間講習の実施													
生徒たちに対する、水の事故予防のための 3 日間キャンプの実施	■	■											
PhotoVoice の実施													
各学校における啓発活動の支援													
事業成果披露イベント													
"Alert Little Tun"の CD や啓発教材 (塗り絵本) の印刷	■	■											
水の事故予防学習のための資料購入	■	■											
活動 2													
教育省との四半期ミーティング	X												
インクルーシブ教育ワーキング・グループの会議実施	■	■											
インクルーシブな水の事故予防ガイドラインの作成	■	■											
水の事故予防カリキュラムのミーティング	■	■											
振り返りワークショップ、サクセス・ストーリー集の作成および印刷													
水の事故予防に関する一般向けの啓発活動	X	■											

参考資料 2 : 各メディアにおける事業成果披露イベントの紹介記事・映像



Thai Post 紙 (掲載 : 2020 年 2 月 22 日)



Daily News 紙 (掲載 : 2020 年 2 月 22 日)



<https://www.thaipost.net/main/detail/57811>
Thai Post の記事 (掲載 : 2020 年 2 月 22 日)



https://www.matchon.co.th/lifestyle/news_1991755
Matchon Online の記事 (掲載 : 2020 年 2 月 21 日)



Save the Children จัดงาน ห่วงใย #เด็กไทยไม่จมน้ำ เหตุเสียชีวิตอันดับ 1 ของเด็กไทย



<https://www.newsplus.co.th/184845>

News PLUS の記事 (掲載 : 2020 年 2 月 15 日)



<https://www.facebook.com/420743041612552/posts/1099842220369294/?vh=e&d=n>

Thai PBS の放送 (放映 : 2020 年 2 月 13 日)



https://youtu.be/Mt1tbqtl_KQ

Baankoooon の放送 (放映 : 2020 年 2 月 13 日)